

まちを楽しくする エリアマネジメントに向けた ガイドライン

提案



番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会の記録

2024年 11月23日

大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

主旨と目次

主旨

子育て中の母親から、この地域には子どもが増えているのに、公園が少なく外で遊ぶ場所がない、という相談が寄せられて、2022年度ゼミ学生の実習課題にあげた結果、学生の提案が「東郷公園を核に、道や公開空地をつなげた遊び場のネットワーク形成」でした。東郷公園にカフェを設けて、東郷パン（東郷元帥にちなんだビーフシチューパン）を販売して、それを資金にエリアマネジメントを行うというものでした。2023年の大妻みち遊びの機会にその展示をしたことから、番九クリスマスマルシェの開催にいたりしました。その第2回目には千代田区のプレイスメイキング事業に採択されて、イベントが目的ではなく、その準備過程のプロセスを重視してみちかつ勉強会を重ねてきました。これはその勉強会の成果をガイドラインにまとめたものです。

目次

子どもにやさしいまちづくり	3
交通量が多くない道は、人優先の道に	4
子どもの育ちには、ご近所の顔なじみが必要	5
遊び場道路開放or歩車共存道路	6
大人も外で楽しむ街路	7
みちあそびをもっと	8
子育てしやすい環境には遊べる道を	9
区内各地で定期的なみち遊び	10
子どもと環境にやさしい住宅地	11
みち・公開空地の一体的活用	12
開発業者、町会、学生等とエリアマネジメント	13
みんなで使うコモニング	14
協議体と実行部隊	15
今後のまちづくりに向けて	16

子どもにやさしいまちづくり

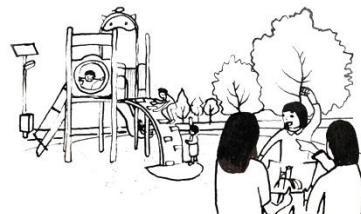
当該地域は増加するマンション立地とともに子ども人口も増えていますが、公園も少なく、子どもが遊び育つ環境には不十分な点があります。子どもがこの地域に育てられたという豊かな経験を与えることが、将来の地域の担い手を育み、住み続けられるまちの形成（SDGs11）に繋がります。



遊び場道路開放



店先学校



子どもがつくる公園



地蔵が見守る道



公共ばあちゃん・じいちゃん



民生委員・児童委員



移動式遊び場



どこでもカフェ



インクルーシブ公園



みんなの庭



地先遊び場



まちをあげて出生を祝う

※イラストは 木下・寺田編著『子どもまちづくり型録』（鹿島出版会2023）より

番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 世話人
木下勇（大妻女子大学教授）

大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

交通量が多くない道は、人優先の道に

50年前の道のすがたから見ると・・・道は社会関係資本形成の場



出典：宮原洋一『もうひとつの学校』新評論、2006年

番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第1回
「生活道路を車から人へ」 講師：久保健太（大妻女子大学）
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

子どもの育ちには、ご近所の顔なじみが必要

とうきょうご近所みちあそびプロジェクト TOKYO PLAY



番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第1回
「生活道路を車から人へ」 講師：嶋村仁志 (TOKYO PLAY)
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

遊び場道路開放or歩車共存道路

子どもたちが遊び、近隣関係が強まる生活道路



大田区遊び場道路
1983



子どもたちの下校時から一定時間、車の侵入を規制して遊び場に



ボンネルフ オランダ 1980



Photo by Kinoshita

番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第1回
「生活道路を車から人へ」 補足資料：木下 勇（大妻女子大学）
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

大人も外で楽しむ街路 Woonerfen



みちあそびをもっと

大妻みちあそび

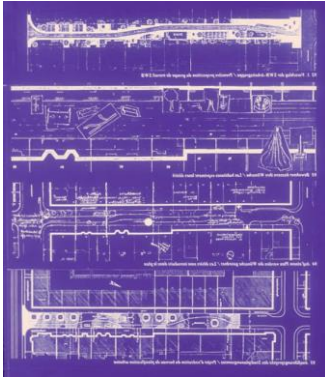


こんなみち遊びをもっと
やってほしい
と保護者の声

番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第2回
大妻みち遊び 展示 ワークショップ
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

子育てしやすい環境には遊べる道を

手づくりで車の速度抑制 チューリヒの生活道路



卓球台で車の速度抑制



1979 スイス ボーンシュラーセ
スイス・チューリヒの生活道路



30年後も
子育てしやすいと人気に

30年後も
子どもが
いっぱい
2010



区内各地で定期的なみち遊び

英国のPLAY STREETS



近隣づきあいが増すみちあそび

Playing Out 「Resident Survey Report 2023」より

コミュニティについて

- 安心感や親しみやすさが増した：91%
- 近所で子どもに新しい友だちができた：84%
- 近所に自分の居場所ができたと感じる：91%
- 地域の活動にもっと参加したいと思う：95%
- 近所に顔見知りが増えた：94%
- みちあそび以外の場面で近所の人との関わりが増えた：78%
 - 子どもの学校への不安が減った、助け合いが生まれた、おしゃべりするようになった等
- 地域の他の活動に参加するようになった：59%
 - お年寄りのための買い物支援、近所の子も一緒に学校や保育園へ歩いていく、街路の花植え活動への参加、道に落ちているゴミをひろう等



英国では2012年にTemporary Play Street Order 週1回2時間の道遊びなら年に1回の申請でOK。全国に1000以上に広がる。ロンドン ハックニー区では週1回2時間道路を閉鎖して子どもたちに開放するみちあそびが2014年にスタートして開かれる道が1年間で32ヶ所に増えた

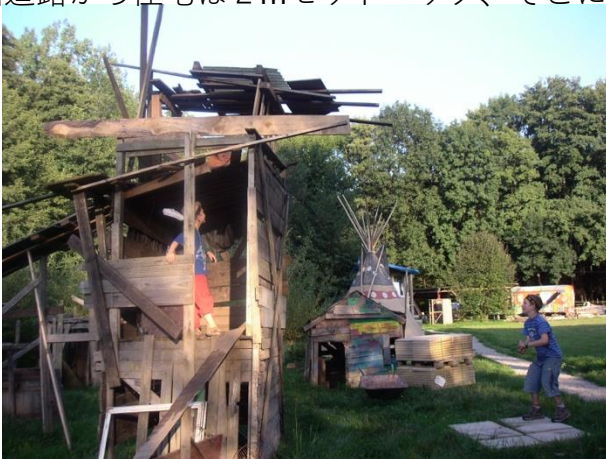
番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第1回
「生活道路を車から人へ」 講師：嶋村仁志（TOKYO PLAY）
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

子どもと環境にやさしい住宅地

VAUBAN フライブルグ/ドイツ



区画道路から住宅は2mセットバック、そこにバスケットボールゴールや雨水利用の水遊び砂場



遊べる道を通って行くと端の緑地帯にある冒険遊び場、子ども牧場に

1世帯あたり平均、子どもが3人、ここに
いると自然と子どもが生まれるという。

<http://www.vauban.de/karte/index.html>

番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第2回
「生活道路を車から人へ」 補足資料：木下 勇（大妻女子大学）
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

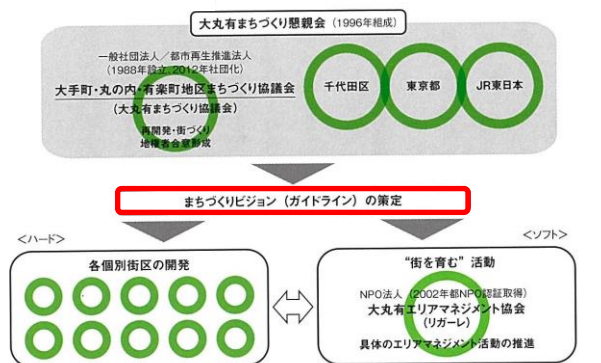
みち・公開空地の一体的活用

大丸有エリアマネジメント

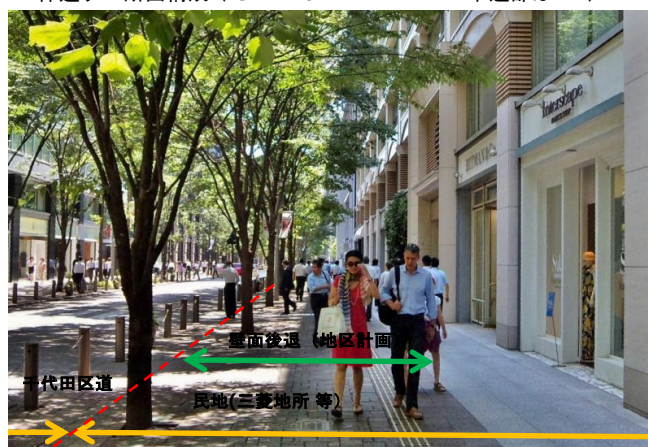


ハードとソフト両面からのまちづくり

仲通り 断面構成 ($9\text{m} + 6\text{m} \times 2 = 21\text{m}$ 車道部は7m)



出典 大丸有エリアマネジメント協会丸の内仲通り 本編集室『丸の内仲通り』156頁 (2019年)



まちづくりビジョンをめざして、関係機関の懇談会と
実行部隊 (エリアマネジメント協会)

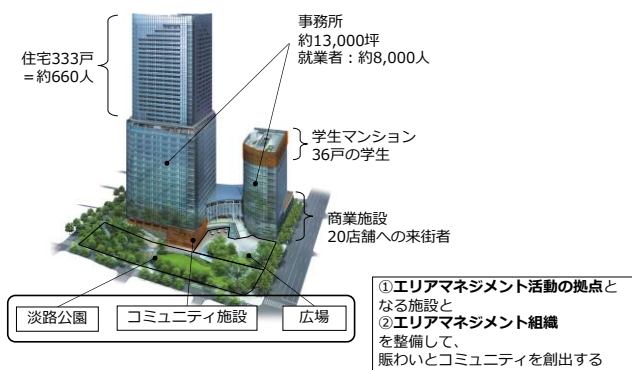
番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第3回
「大丸有のエリアマネジメントに学ぶ」

講師：岸井隆幸氏 (NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会 理事長
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

開発業者、町会、学生等とエリアマネジメント

公園と公開空地をつなげて、神田淡路町ワテラス

1-⑥ 特区提案の9つの地域貢献 エリマネ活動の拠点



あとあとの
エリアマネジメント
を条件に再開発



道で子ども縁日や餅つき

千代田区九段二丁目町会

道に畳 なんだかんだ

& Park(ing)Day

神田プレイスメイキング実行委員会



麹町警察署より道路占有許可を取得



番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第4回

「ウォーカブルなまちづくりミニシンポジウム」

講師：下山青葉（安田不動産）、中島伸（東京都市大学准教授）

上村友子（三番町町会長）、橋本樹宜（九段二丁目町会副町会長兼青少年部長）

坂口次郎（富士見小地域コーディネーター）藤本真一（環境まちづくり部計画推進担当係長）

大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

みんなで使うコモニング

私空間を開く、公共空間をみんなで使う

商品化／私物化された
オーバーツーリズム、「市場が都市空間を奪った」



みんなで使う = コモニング

- 1) **誰のものでもない**空間をみんなで使う
＝西洋的な公共空間思想、
奪われた公共空間を取り戻す都市社会運動
- 2) **みんなのもの**である空間をみんなで使う
「みんなの空間」が西洋的な公共空間思想だと勘違い
ウォーカブルシティ、ストリートマネジメント
← エリアの不動産価値向上の手段となることに無批判
- 3) **誰かのもの**である空間をみんなで使う
西洋とは異なるアプローチの行為に価値を置く
都市空間活動
物的空間より、**行為に価値**を置いた
都市づくり／デザイン

番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第5回
都市のコモニング 私空間を開く、公共空間を私化する

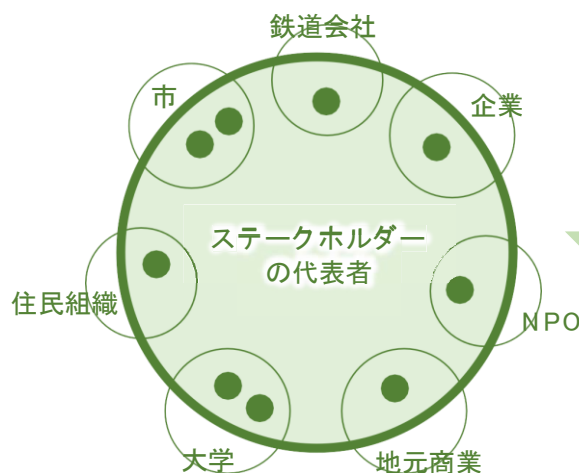
講師：岡部明子氏（東京大学大学院 新領域創成科学研究科教授）
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

協議体と実行部隊

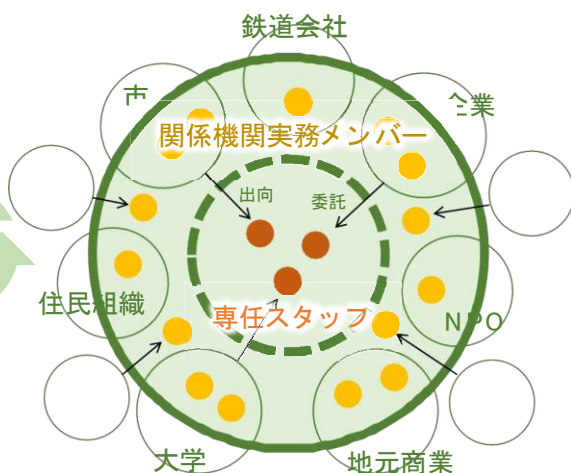
柏の葉エリアマネジメント

“連携”を生み出す仕掛け

ステークホルダーによる下支え と 現場の柔軟性・専門性 : 二重構造の重要性



ステークホルダーの代表者による協議体
UDCの立場・活動を審議し支える



まちづくりの実行部隊
UDCのつながりのなか日々現場で実務を担う

柏の葉における公・民・学連携の構図

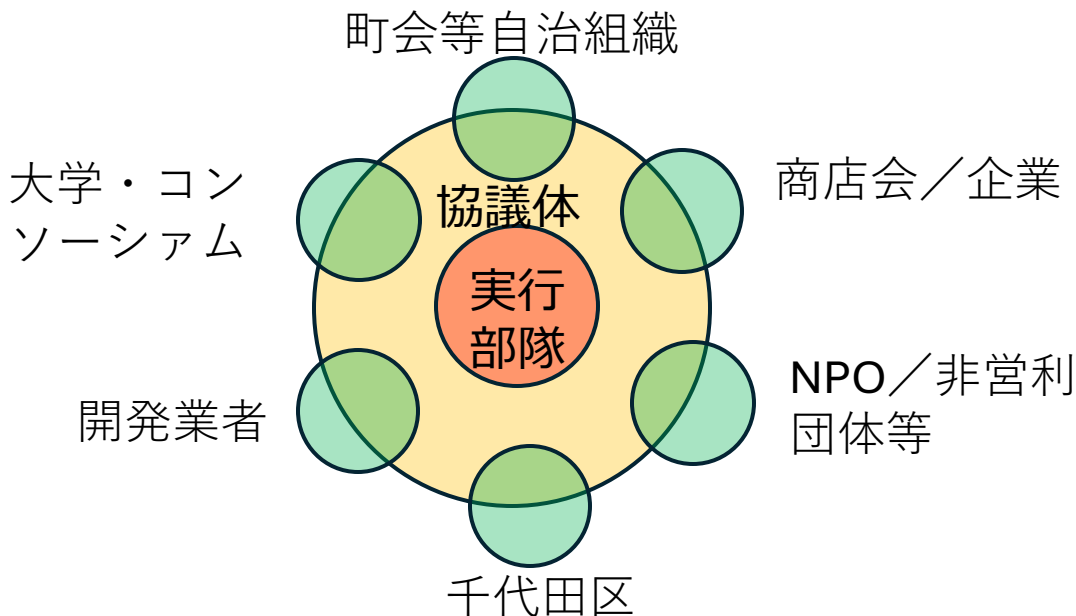
ビジョンの共同策定 × 推進機関の共同運営



番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会 第6回
柏の葉エリアマネジメントに学ぶエリアマネジメントの進め方
講師：三牧浩也氏（柏の葉アーバンデザインセンター 副センター長）
大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

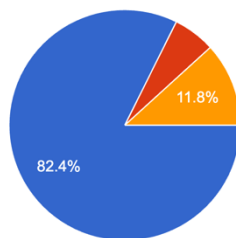
今後のまちづくりに向けて

やはり協議体と実行部隊が必要



アンケート結果 ミニシンポ時 回答17件

町会などの組織と他の団体等がつながり、道や公開空地はじめ屋外に子どもや人がもっと出て楽しむための催しを行なったり、まちづくりの方向を考えるエリアマネジメントが当該地でも必要と感じますか？



● はい、そう思う
● いいえ、そう思わない
● わからない

本地域は江戸時代には大番組という江戸城の守りの要の旗本屋敷の地区でした。その歴史の上に今日は文教地区として発展し、また伝統的祭祀も町会、商店会の強い結束で保たれてきました。

しかしながら、今日は高層マンションの立地が著しく、子育て世帯も増加しています。この新しい層をどのように新たなコミュニティの一員として受け入れていくかも課題となっています。また当該地域のみならず、今後深刻化する温暖化、自然災害の猛威、災害時の対応など誰もが安心して住み続けられるまちづくりには、個別単位の組織、機関だけではなく、より広いまとまった範囲での町内会、商店会、大学、開発業者、NPO等と行政が連携した協議体の形成が求められます。

以上の経緯で、このガイドラインは子育て、教育とまちづくり、いわば「まち育て」の提案として作成しています。他、温暖化対策、防災など面での検討も必要かと思いますが、この提案をもとにさらに案を磨き、地域の将来像を共有して描くことに活用いただけたらと思います。

一年之計、莫如樹穀。十年之計、莫如樹木。終身之計、莫如樹人 管子

(一年の計は穀物を植えるに及ぶものではなく、十年の計は木を植えるに及ぶものではなく、終身の計は人を植えるに及ぶものはない。 管子)

文責 木下勇 (大妻女子大学教授)

番九クリスマスマルシェ実行委員会 みち活勉強会

世話人 木下 勇・磯山直也 (大妻女子大学講師) ・山森彩香 (コミュニティパートナー (株) 代表取締役)

16 大妻女子大学地域連携プロジェクト、千代田区プレイスメイキング実証実験

